

10 月の中国

ここ杭州市では、9 月が過ぎ 10 月末になってくると冷え込みも増し秋らしい気候となってきました。10 月の初めは、温度と湿度が高く汗が噴き出すような日もありました。しかし、月末は一転し、涼しく過ごしやすい気温となりましたが、今月の温度の高低差が大きく、自身の体調管理に気を配りながらの生活でした。

今年の中国の 10 月は、すぐ中秋節に入る日程であった為、国慶節と重なった 9 日間に及ぶ長い休みになりました。国慶節、中秋節の間は杭州市の至る所に中国の国旗がたてられています。

この長い休みを利用して中国の人々は観光や帰省などで多くの人が様々な場所へ赴きます。観光地、交通機関が人で溢れかえる大移動の時期となります。そして、この長い休みが過ぎると、中国国内ではいつも通りの日々の喧騒を取り戻していきました。



中国のシェアバイク

中国といえば、多くの人が自転車に乗り移動しているイメージを持っている方も少なくないと思います。私もそのイメージを持っていた人間の一人です。実際に中国に来てみて自転車大国であることは間違いないと思ったのですが、私が持っていたイメージとは少し異なったものでした。

現在の中国では個人が自転車を購入し、所有するという形態が主流ではなく、ネットを利用したレンタルバイクが主流となっていました。シェアバイクとは、自転車に張っているバーコードをバーコードリーダーで読むことによって自転車をシェアするサービスです。歩道の至る所に止めてあるレンタルバイク専用の自転車を利用します。支払いはネットの電子マネーを利用して行います。シェアバイクも色々な会社の自転車があり多種多様な自転車があります。料金設定も非常に安く、30 分約 10 円程度のシェアバイクなどが存在します。今となってはこの杭州市内での私の生活においてなくてはならないものとなっています。



国慶節と中秋節

今年の杭州市での国慶節はあまり雨が降らなかったのですが曇りの日が続き、気温が高くそして湿度も高く、徒歩や自転車での移動はなかなか大変なものでした。

国慶節では、まずシェアバイクのサービスを使って西湖の周りを観光しました。私が出宿している玉泉キャンパスから1日掛けて西湖を周りました。西湖の周りは人が多く、どこも非常に込み合っている状況でした。この日は地理の把握を優先して有名な観光地、繁華街を周りつつ、1周しその日を過ごしました。

そして、日を改め西溪国家湿地公園に行きました。ここも西湖と同じように杭州市内の有名な観光地の一つです。西湖周辺の景色を観た際にも思いましたが、杭州市街のような都会で緑と水が溢れる場所が共存していることに感嘆するばかりでした。西溪湿地も広大な土地を擁しており、この公園も1日では周りきれずまた日を改めて回ることになりました。

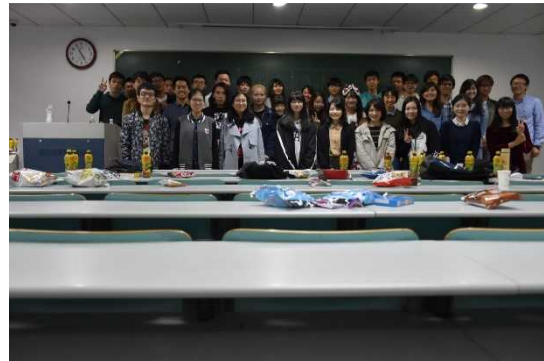
国慶節の最後、銭塘江の高潮観光に行きました。ブラジルで有名なポロロッカのようなものが中国でも観られるということで、地下鉄を乗り継ぎ杭州市の隣の市である嘉興市まで行きました。地下鉄を降りた後はシェアバイクを使い、銭塘江の河口に近づくと迫力のある高潮が観られると聞き、観やすい場所を探しつつ河口方面へ下りました。高潮発生予告時間が近づき、場所を決めカメラを構え発生を待ちました。高潮が遠くからこちら側に近づくとつれ、徐々に波から発生している音も大きく聞こえてきました。私が観た場所では堤防がかなり高く、私たちの所まで水飛沫が飛んでくることはなかったのですが、とても迫力があり、来た甲斐があったと確信する光景でした。周りの中国人も私たちと同じように興奮した様子で波が目の前を過ぎ去っていくのを見届けました。



中国の人々との交流

この浙江大学で中国語を勉強していて気付いたことがあります。それは、中国人と友人になる事の難しさです。クラスメイトは全員が留学生なので、中国人との交流は学生生活だけを送っているとなかなか難しいのです。私は中国語を流暢に話すことが未だ出来ず、クラスメイトと会話をするときは英語を少し混ぜるような状態でした。その為、ある程度日本語を理解できる中国人と友人になり、お互いの母国語を教えあう関係を築きたいと思い友人を探しました。大学外での日中交流会への参加、玉泉キャンパス以外の浙江大学のキャンパスに足を運び、そこでの日中交流会にも参加するなど、土曜日と日曜日を使って広く動きました。その結果、中国人の友人を何人か作ることが出来、同じ趣味を持っている中国人とも友人になることが出来ました。今では中国人の友人と一緒に外出することもあります。友人を作ること以外にも、やはり積極的に物事に取り組む姿勢が大切なのだと改めて感じました。

今月は中国人の友人が所属するサークル活動を見学してきました。



中国語に少しずつ慣れ始め、言葉での応答で出来ることが少しずつ増えてきたと実感しています。中国語の上達は当然ですが、これからは杭州市だけでなく遠方まで足を伸ばし、中国の文化にもっと触れていこうと思ひ、遠出の計画をどんどん立てていきたいと思ひます。以上が今回のレポートとなります。

浙江省友好交流員
加治屋 樹